

～ 令和2年度 糸魚川市駅北復興まちづくり計画 ～
内部評価結果（全体概要）

令和2年度に計画している施策 51 件のうち、「完了」は7件（13.7%）・「実施中」は44件（86.3%）であり、一部の施策を除いて計画どおり進捗しています。

1 進捗管理と評価の概要

- (1) 評価対象 令和2年度に実施することとしている51 施策
 (2) 評価方法 内部評価：令和3年1月27日～2月19日
 ※あわせて被災者・関係者アンケートを実施
 ※外部評価委員会による評価は令和元年度で終了

2 施策の実施状況

復興まちづくり計画の施策	78件
(1) 令和元年度までに完了した施策	27件
(2) 令和2年度に計画している施策	51件
完了したもの（※1）	7件（13.7%）
実施中のもの	42件（82.4%）
計画遅れのもの（※2）	2件（3.9%）
未着手のもの	0件（0.0%）

※施策ごとの評価内容は別紙1（参考）のとおり

【※1 令和2年度に完了する施策】

- ・本町通りにおける延焼遮断帯の形成
- ・融雪揚水の消防水利への活用
- ・消防用高所監視設備の設置
- ・復興おまんた祭りの開催
- ・消防水利看板の設置
- ・鉄道資産を活用した誘客の強化
- ・地場産材等を活用した復興モデル住宅の推奨、支援

【※2 計画に対して遅れの施策】

・にぎわいの拠点施設の整備

⇒復興まちづくり計画では、令和3年度工事着手としているが、駅北まちづくり戦略（令和2年10月策定）において、子育て支援を中心とする機能として基本構想を位置づけ、令和3年度から施設整備に向けた詳細検討をすることとしているため。

・海望施設の検討

⇒駅北地域全体のまちづくりのなかでの位置づけや国道と海岸に近接する立地条件等も考慮する必要があり、既存の展望施設の機能拡充やリニューアルあるいは新設なども含め、復興まちづくり計画の期間である令和3年度までに方向性を見出すことが難しい状況であるため。

糸魚川市駅北復興まちづくり計画 R2年度施策評価シート(個別) 一覧表

No.	復興まちづくり計画										内部評価(個別)																
	事業No.		施策名	施策概要	事業主体	担当課	事業年度					重点P	R2年度 実施概要	実施状況					R2年度 評価概要	総合評価							
	方針編	連番					H29	H30	R1	R2	R3			◎	○	△	×	ー		○	△	×					
1	1	1	防災機能をもつ市道の拡幅	緊急車両の通行、延焼の防止、速やかな避難を可能にする市道の幅員を確保する。	市	建設課	○	○				2	(H30年度で完了)	◎													
2	1	2	防災機能を備えた広場の整備	災害時における一時避難や救護活動の場としての防災機能を備える広場を整備する。	市	復興推進課(建設課)	○	○	○			2	(R1年度で完了)	◎													
3	1	3	無電柱化の推進	災害時における避難経路の確保や街なみ景観の向上を図るため、本町通りをはじめ被災地周辺の無電柱化を推進する。	市	建設課	○	○	○	○	○	3	・本町通り/万代屋裏小路線の電線共同溝埋設工事を実施(全工程は、R3.12頃完了予定) ・当初計画の仲町通線/藪西線は、技術的課題が多くR3までの整備見送り	○									△				
4	1	4	マンホールトイレの設置	防災公園内にマンホールトイレを設置し、災害時に仮設トイレとして利用す	市	ガス水道局		○					(H30年度で完了)	◎													
5	1	5	ガス、水道、下水道管整備	道路の改良・新設計画に基づき、ガス・水道・下水道管を整備する。	市	ガス水道局	○						(H29年度で完了)	◎													
6	1	6	本町通りにおける延焼遮断帯の形成	本町通り沿いの建築物の防火性能を高めて延焼遮断帯とし、まち全体の防火機能を高める。	本町通り商店街振興組合、沿線住民、市	建設課	○	○	○	○		2	・支援制度の利用 0件(再建は概ね完了済み) ・昨年度までに新築された準耐火建築物は適切に維持	◎										○			
7	1	7	木造の建築物が密集する地域における建築物の不燃化に対する支援	火災の延焼を防止するため、住民と連携した防災まちづくりを検討するとともに、木造の建築物が密集する地域における建築物の不燃化に対する支援	市	建設課	○	○	○	○	○	2	・支援制度の利用 0件(再建は概ね完了済み) ・昨年度までに新築された防火性の高い建築物は適切に維持	○										○			
8	1	8	危険家屋の解体促進による延焼防止	木造の建築物が密集する地域内の危険家屋の解体を促進することで、火災の延焼を防止する。	市	建設課(環境生活課)	○	○	○	○	○		・危険空き家除去の補助制度利用(復興計画区域内:0件)	○										○			
9	1	9	大型防火水槽の設置	駅北地区及び市内で木造の建築物が密集する地域等に大型防火水槽(100㎡程度)を整備する。	市	消防本部警防課	○	○				1	(H30年度で完了)	◎													
10	1	10	海水や用水など自然水利の活用	海水取水配管システムを検討するとともに、奴奈川用水や都市排水路(城の川)からの取水箇所を増設する。	市	消防本部警防課	○	○	○			1	(R1年度で完了)	◎													
11	1	11	住宅用火災警報器(連動型含む)の設置推進	火災の早期発見・消火、避難行動につなげるため、住宅用火災警報器の100%設置を目指すとともに、モデル地区を設定して連動型火災警報器の設置を推進する。	市	消防本部予防課	○	○	○	○	○	1	・一般型:88.3%(R2.6標本調査) ・連動型:6地区117世帯(39.3%/対象298世帯) ・「ジオしき」ステッカーと警報器一斉点検の日(12/22)による啓発活動	○											○		
12	1	12	融雪揚水の消防水利への活用	道路融雪の揚水(消雪パイプ)を消防水利の補給水として活用する。	市	建設課	○	○	○	○			・海望公園向かいの駐車場で施工(全3か所の設置を完了)	◎										○			
13	1	13	消防水利看板の設置	消防活動が円滑に行えるよう、水利の位置や活動エリア等を看板に表示する。	市	消防本部警防課	○	○	○	○			・海望公園向かいの駐車場で施工(防火水槽連結送水管の解説看板)	◎											○		
14	1	14	避難誘導看板の設置	災害発生時、速やかに避難できるよう、避難誘導看板を設置する。	自主防災組織、市	消防本部消防課	○	○	○				(R1年度で完了)	◎													

No.	復興まちづくり計画					内部評価(個別)																	
	事業No.		施策名	施策概要	事業主体	担当課	事業年度					重点P	R2年度 実施概要	実施状況					総合評価				
	方針No.	連番					H29	H30	R1	R2	R3			◎	○	△	×	—	◎	△	×		
15	1	15	初期消火体制の強化	住民等が行う初期消火体制を強化するため、市内木造の建築物が密集する地域等における小口径ホースなどの資機材の整備や小規模飲食店への消火器設置義務化をはじめとする消火器の設置促進と操作教育を合わせ	自主防災組織、市	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○	1	・地区や自衛消防組織に出向いての放水体験車両を用いた訓練 ・小規模飲食店への立入検査、消火器設置指導 ・「ジオしき」ステッカーで火災発生時の行動手順をPR	○						○			・「ジオしき」の手順は更なる市民への周知、浸透が必要。 ・コロナ禍で対人による周知や訓練の機会が減ったため周知や訓練方法の工夫が必要。
16	1	16	消火栓の機能強化	駅北地区及び市内で木造の建築物が密集する地域等の消火栓の機能を強化する。	市	消防本部警防課	○	○	○	○			(R1年度で完了)	◎									
17	1	17	消防用高所監視設備の設置	火災時の飛び火警戒対策を強化するため、市内高所に監視設備を設置する。	市	消防本部警防課	○	○	○	○			・可搬式カメラ等による映像伝送装置の整備と訓練を実施 ・高台や高所監視利用建物の選定	◎								○	・映像伝送訓練における装置やシステムの課題を検証し、運用方法を見直す。
18	1	18	常備消防及び消防団の初動体制の強化	常備消防及び消防団の火災等における初動体制を確立するため、人員及び資機材等を充実・強化するとともに、消防団の組織再編とあわせ、方面隊の合同訓練を実施するなどして初動	市	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○	1	・地区、関係機関との連携訓練の実施(横町地区)	○								○	・訓練参加人数を絞ったり感染症対策を講じるなどして、訓練機会を確保することができた。
19	1	19	関係機関、団体との応援協定の締結	県外消防本部、地元業者等と相互応援協定を締結し、迅速な対応と消防防災対策を円滑に行う。また、市外団体との大火に関する研究・連携の協定等を検討する。	市	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○	1	・新規で2団体との締結を予定 ・協定締結団体による連絡会議(書面開催)	○								○	・コロナ禍のため、協定に基づく支援/受援体制の確認(訓練)ができなかった。
20	1	20	強風時における飛び火対応の強化	強風時の飛び火等の対応を迅速かつ的確に行うため、飛び火等の警戒対応を定めた要領を基に訓練する。	市	消防本部警防課	○	○	○	○	○	1	・「強風時火災消防活動要領」に沿った消防団、自主防災組織等との合同訓練を実施(2回)	○								○	・実際の火災現場において、早期の飛び火警戒により拡大を未然に防ぐことができた。
21	1	21	自主防災組織等の充実、強化	災害による被害を予防・軽減するため、地域住民主体の防災活動の充実、強化を図る。	自主防災組織、自治会	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○		・自主防災組織が行う資機材整備、防災活動を支援する補助制度の拡充 ・出前講座の実施	○								○	・自主防災組織の組織率は86.9%(未組織13区)であり、高齢化等で組織化が地区も見られる。
22	1	22	消防団、自主防災組織の連携	住民等が行う初期消火等の初動体制を強化するため、消火器等を利用した初期消火の手順動画教材を作成し、消防団及び自主防災組織が連携し実働訓練に生かす。	市	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○		・各地区、自主防災組織の初期消火訓練等への消防団員の参加 ・動画教材等の活用 ・コロナ禍における避難所設営・運営についての対応を確認	○								○	・消防団員が参加する訓練の割合が3割程度に留まっている。 ・コロナ禍でも訓練として最低限実施すべき対応(参加者数の調整や役員による連絡会議等)を確認する。
23	1	23	消防団員の確保	次代の消防を担う新たな人材の獲得のため、若手消防団員による地域イベント等を開催し、消防団員を勧誘する。また、消防団協力事業所制度の活用等による事業所への優遇措置により、消防団員が活動しやすい環境を整	市	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○		・消防防災フェア等でのPR活動 ・災害に特化した機能別消防団員「山岳隊」「ドローン隊」を発足	○								○	・活動時の負担軽減や優遇措置の検討など、消防団のさらなる環境改善が必要である。 ・コロナ禍の影響でサポート事業ができなかった。
24	1	24	建物屋上からの消火活動の取り決め	高所放水できる建物の所有者と、事前に放水利用について取り決めておく。	市	消防本部警防課	○	○					(H30年度で完了)	◎									
25	1	25	こども消防隊の設置	自らの命を守る主体的な行動力を育成するため、防火防災の知識・技術を身につける。	学校、市	消防本部消防防災課	○	○	○	○		6	・R2隊員50人(新規入隊11人) ・防火講習、訓練等の実施(3回) ・街頭広報活動(火災予防運動中) ・防災行政無線による防火広報	○								○	・コロナ禍で、訓練回数が3回と少なくなったが、実際の消火器の使用や濃煙内での避難等、より実際に近い訓練を実施できた。 ・毎年の訓練内容が同じになりがちのため、中・高学年ごとに内容を分ける等の工夫が必要。

No.	復興まちづくり計画										内部評価(個別)											
	事業No.		施策名	施策概要	事業主体	担当課	事業年度					重点P	R2年度 実施概要	実施状況					総合評価			
	方針No.	連番					H29	H30	R1	R2	R3			◎	○	△	×	—	○	△	×	
26	1	26	復興まちづくり版マンホール蓋への取替	マンホールの一部を「復興まちづくり版」カラー蓋に取替し、防火意識の啓発につなげる。	市	ガス水道局		○	○	○	○	6	・R2取替なし(他工事との工程調整) ・マンホールカードの配布をキターレに集約し、被災地域への集客を促進(累計配布3,200枚 R3.1時点)		○					○		
27	1	27	市民が主役の火災予防	防災、火災予防に資する行事や地元活動への積極的な参加を促すとともに、一般家庭防火診断や防火意識向上の広報等に取り組む。	自主防災組織、自治会、市	消防本部予防課	○	○	○	○	○		・木造建物密集地区における一般家庭防火診断を実施 ・毎月19日(火災予防の日)、気象状況に応じた防火の呼びかけ ・火災予防運動、消防防災フェア等での防火PR	○						○		
28	1	28	児童、生徒の防災教育の推進	自分の命は自分で守れるよう、駅北大火の情報を整理して、防災教育を推進する。	学校、市	こども教育課	○	○	○	○	○		・小学校の校外学習でキターレ大火展示等を活用した防火学習を実施 ・R3年度以降の学習継続に向けた制度設計と校長会等での周知 ・社会科副読本を活用した学習の実施	○						○		
29	1	29	防火、防災出前講座の実施	出前講座の実施で地域の防火機運を高め、防災活動を主導する防災リーダーを育成する。	自主防災組織、市	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○		・出前講座の実施(60回、1,536人参加 R3.1末時点) ・防災リーダー研修の開催(R3.3)	○						○		
30	1	30	事業所との初期消火の体制構築	火災発生時に事業所が協力できる体制を構築する。	事業者、市	消防本部消防防災課	○	○	○	○	○		・事業所近隣での火災発生時への協力について、避難訓練等の際に協力を呼びかけ	○						○		
31	1	31	火災延焼システムの導入検討	防火意識を高めるため、火災延焼シミュレーションシステム等の導入を検討する。	防災情報研究所、市	消防本部警防課	○	○	○	○	○		・GISデータを用いた市街地火災延焼シミュレーションの実施 ・関係課調整と利活用の検討	○						○		
32	1	32	防災学習のための看板の設置	街歩きをしながら防災学習ができるように、被災地内の街角に小型の学習看板を設置する。	市	文化振興課		○	○				(R1年度で完了)	◎								
33	1	33	避難訓練の実施	避難の手順や初動避難の重要性を確認するために、避難訓練を定期的に実施する	自主防災組織、自治会、学校、事業者、福祉施設、市	消防本部消防防災課、こども課	○	○	○	○	○		・消防法に基づく学校、事業者、福祉施設等での訓練実施	○						○		
34	2	1	事業再建支援策の拡充とUIターン創業の促進	ビジネスチャレンジ支援事業の被災事業者への支援を拡充する。また、UIターンからの新規創業者を呼び込むため創業セミナー等を開催する。	創業支援ネットワーク、市	商工観光課	○	○	○	○	○	4	・糸魚川創成塾2020の開催(基礎講座5回、19名参加) ・創業支援事業補助金の継続(被災事業者の家賃補助 1件)	○						○		
35	2	2	商店街等のにぎわいの創出	商店街等のにぎわい創出のため、復興市や復興セールを開催する。	商店街組織	商工観光課	○						(平成29年度で完了)	◎								
36	2	3	仮設店舗設置等の支援	空き店舗等を活用した仮設店舗の設置等に係る経費を支援する。	商工会議所	商工観光課	○	○					(平成30年度で完了)	◎								

No.	復興まちづくり計画										内部評価(個別)														
	事業No.		施策名	施策概要	事業主体	担当課	事業年度					重点P	R2年度 実施概要	実施状況					総合評価						
	方針No.	連番					H29	H30	R1	R2	R3			◎	○	△	×	—	○	△	×				
37	2	4	にぎわいの拠点施設の整備	子育ての相談窓口など暮らしを支える公共的なサービス機能を導入し、市内外の交流拠点の整備を検討する。	商工会議所、観光協会、商店街組合、各種団体、市	復興推進課	○	○	○	○	○	4	・駅北まちづくり会議の開催(推進会議1回/実践会議4回/部会6回) ・駅北まちづくり戦略(R2.10策定)で、にぎわいの拠点施設の方向性を「複数分散型のまちづくり」「子育て支援を中心とした機能」として位置付け				△				○				
38	2	5	にぎわい創出広場の整備	にぎわいの創出を目指して、起業を希望する者などが気軽に開店できる環境と、人が集まる広場の整備するとともに大火の記憶を伝承し、防災活動や防災教育・啓発の場とする。	商工会議所、観光協会、商店街組合、各種団体、市	復興推進課	○	○	○			4、6	(R1年度で完了)	◎											
39	2	6	海望施設の検討	日本海に一番近い新幹線糸魚川駅の立地条件を生かした交流人口の拡大を目指して、日本海を展望できる施設の整備を検討する。	商工会議所、観光協会、市	商工観光課、復興推進課、建設課	○	○	○	○	○	4	・施設整備の位置付けや目的、主とするターゲット等の具体的な検討に至っていない					△				○			
40	2	7	街なか駐車場の検討	市外からの誘客の強化を図るため、街なか駐車場設置に向けた適正規模・適正配置を検討する。	市	復興推進課	○	○	○				(R1年度で完了)	◎											
41	2	8	歴史ある酒蔵、割烹の再建支援	歴史ある酒蔵、割烹の再建にあたり、回遊性を高めるための施設整備や景観形成などの公共性の高い取組を支援する。	事業者、市	商工観光課、建設課	○	○	○	○	○		・H31.4までで、両事業所ともに再建完了(事業再開)		○							○			
42	2	9	鉄道資産を活用した誘客の強化	糸魚川ジオステーション”ジオパル”における鉄道資産を活用した誘客を強化し、街なかへの回遊者の増加を	市	建設課	○	○	○	○			・トワイライトエクスプレス再現車両の展示(R2.8) ・SLくろひめ号の移設展示(R2.10)	◎								○			
43	2	10	雁木再生への支援	歴史的街道として、雁木のある糸魚川らしいまちなみ景観を形成するとともに、難燃材や不燃材を使用した雁木の再生を図る。	本町通り商店街振興組合、商工会議所、沿線住民、市	商工観光課、建設課	○	○	○	○	○	3	・個人雁木再建の補助制度利用 0件 ・雁木床面の本舗装に向けた支援制度検討と関係者協議		○							○			
44	2	11	雁木のあるまちなみと調和する住宅や店舗の建築の促進と支援	雁木のあるまちなみと調和する住宅や店舗の建築を推奨し、糸魚川らしいまちなみを再生する。	本町通り商店街振興組合と周辺の商店街組合、商工会議所、観光協会、沿線住民、市	建設課	○	○	○	○	○	3	・支援制度の利用 0件(被災地内の再建は概ね完了済み)		○							○			
45	2	12	道路や歩道の美装化	糸魚川らしいまちなみを楽しみながら商店街などを周遊、散策できるよう道路や歩道の美装化を行う。	市	建設課	○	○	○	○	○	3	・R2年度施工区間無し(他工事との工程調整による)		○								○		
46	2	13	ふるさとかるたの路面表示	「糸魚川ふるさとかるた」をモチーフとした看板や路面標示(埋め込み型石盤等)を整備し、歩いて楽しめる仕掛けづくりを行う。	市	文化振興課、建設課	○	○	○				(R1年度で完了)	◎											

No.	復興まちづくり計画										内部評価(個別)											
	事業No.		施策名	施策概要	事業主体	担当課	事業年度					重点P	R2年度 実施概要	実施状況					総合評価			
	方針No.	連番					H29	H30	R1	R2	R3			◎	○	△	×	-	○	△	×	
62	2	29	まちづくりを担う人材の育成	市民、事業者、団体、大学等と連携し、外部人材も活用して、地域の未来を担う人材を育成するとともに、地域活性化に向けた体制づくりを支援する。	各種団体、事業者、金融機関、大学、市	商工観光課、企画定住課、復興推進課	○	○	○	○	○	4	・若者の力による地域活性化交流事業(ワカチカ)/駅北1件 ・まちづくり戦略の実践活動に対する補助/1件	○						○		
63	2	30	官民連携による事業の推進	防災とにぎわいの拠点施設やにぎわい創出広場等の整備や運営に際し、地域の企業、金融機関、行政等により、官民連携事業を推進する体制づくりを行う。	各種団体、事業者、金融機関、市	復興推進課	○	○	○	○	○		・駅北まちづくり会議の開催 ・駅北まちづくり戦略の策定(公民連携によるリノベーションまちづくりの取組推進) ・駅北広場の指定管理	○						○		
64	3	1	医療、福祉や子育てサービスと連携した市営住宅の整備	被災者の生活再建支援及び多様な住宅供給により多世代が住み続けられる住環境を整備する。	事業者、市	建設課	○	○				5	(H30年度で完了)	◎								
65	3	2	地場産材等を活用した復興モデル住宅の推奨、支援	地域材の利用促進や生産技術を継承した復興モデル住宅を提案・推奨するとともに、住宅等の再建を支援する。	市	建設課、農林水産課	○	○	○	○		3	・地場産材を活用した住宅再建補助 R2: 利用無し	◎						○		
66	3	3	被災地域における敷地再編による木造の建築物が密集した地域の解消	小規模または不整形な住宅敷地を再編し、木造の建築物が密集した地域を解消し、良好で住みやすい住宅環境をつくる。	市	建設課	○	○				2	(H30年度で完了)	◎								
67	3	4	道路側溝の改良事業	道路側溝を改良し、歩行者が安全に通行できる歩道帯を確保する。	市	建設課	○	○					(H30年度で完了)	◎								
68	3	5	誰もが気軽に集える場づくり	日中は高齢者や子育て世代が気軽に集えるお茶のみサロンや、夜間は若者を中心に集える語らいの場づくりを推進します。	自治会、市	企画定住課	○	○	○			5	(R1年度で完了)	◎								
69	3	6	生活再建のための金融等の支援(生活資金)	市内金融機関から生活再建の融資を受けた被災者にその利子(最大3年分を一括助成)を助成する。	市	福祉事務所	○	○	○			5	(R1年度で完了)	◎								
70	3	7	生活再建のための金融等の支援(住宅再建)	市内金融機関から住宅再建の融資を受けた被災者にその利子1%を限度に(最大5年分)助成する。	市	建設課	○	○	○	○	○	5	・新規の受付は終了(R1.12.30) ・累計9件に対する利子補給継続	○						○		
71	3	8	植栽・植樹の促進	植林によって地域の防火機能を高めるとともに、大火の記憶を受け継ぎながら、緑のある快適な住宅環境を形成する。	各種団体、市	復興推進課、農林水産課		○	○	○	○	2、6	・近隣住民参加による花植え活動(R3.3予定) ・小学校の総合学習等で防災公園等を巡る学習の実施	○						○		
72	3	9	ホームページ等による復興情報の発信	ホームページ等で復興に向けた取組状況を全国に情報発信するとともに、記録誌を作成して大火の記憶を後世に伝える。	市	総務課、復興推進課	○	○	○	○	○	6	・復興HP「HOPE糸魚川」の運用(閲覧件数:約34万件 R2.12まで) ・復興まち歩きの日2020の開催	○						○		
73	3	10	被災地域へのUIターンの促進	首都圏在住者と糸魚川市をつなぐツアー等の実施、賃貸住宅家賃補助等を拡充して、被災地域への幅広い世代のUIターンを促進する。	自治会、市	企画定住課	○	○	○	○	○	5	・ワーケーション希望者を対象としたモニターツアー(R2.10.17_18 10人参加) ・移住希望者を対象とした体験ツアー(R2.10.24_25 7人参加) ・UIターン促進空き家改修事業の制度拡充	○						○		

No.	復興まちづくり計画										内部評価(個別)												
	事業No.		施策名	施策概要	事業主体	担当課	事業年度					重点P	R2年度 実施概要	実施状況					R2年度 評価概要	総合評価			
	方針No.	連番					H29	H30	R1	R2	R3			◎	○	△	×	—		○	△	×	
74	3	11	被災地域の固定資産税・都市計画税の減額	被災住宅用地の固定資産税・都市計画税の負担を軽減する。また、再建する建物及び営業用資産は、設置後4年間の税負担を軽減する。	市	市民課	○	○	○	○	○		・被災した建物及び事業用資産の代替資産に対する軽減特例を適用(R3.3.30までの取得が対象)	◎	○					・被災者の再建後の負担軽減に寄与している。	○		
75	3	12	日常生活の支援を行う相談員の配置	精神面での支えや安否確認、生活全般の困りごと等の相談を受ける相談員を配置する。	社会福祉協議会	福祉事務所	○	○				5	(H30年度で完了)	◎									
76	3	13	新たな訪問診療等事業所の誘致	訪問診療、通所リハビリテーション等の体制の充実を図るため、新たに被災地周辺で開業を希望する事業所を	事業者、市	健康増進課	○	○					(H30年度で完了)	◎									
77	3	14	こころとからだの応援事業	心身の健康の保持増進を目指し、専門職による被災世帯の家庭訪問や健康相談等を実施する。	市	健康増進課	○	○					(H30年度で完了)	◎									
78	3	15	健康づくりへの支援	生活費の負担軽減と健康維持のため、医療費及び介護費の一部や施設利用料の一部を補助する。	市	健康増進課	○	○					(H30年度で完了)	◎									

～ 令和2年度 糸魚川市駅北復興まちづくり計画 ～
被災者関係者アンケート結果

1 被災者・関係者アンケートについて

被災者・関係者の意識を把握し、今後の施策に反映させていくとともに、内部評価が適正かどうかを把握することを目的に実施。

対象者：被災者及び地区代表などの関係者 193人

期 間：令和3年2月1日～2月19日

回答者：46人（うち被災地内30人、被災地外16人）

回答率：23.8%（参考前年：30.5%）

内 容：6つのプロジェクトごとの5段階評価と自由記述

(1) 5段階評価

取組が進んでいる、効果があがっている ⇒ 5点

取組が進んでいない、効果があがっていない ⇒ 1点

プロジェクト名	R2平均点		※参考過去	
			(R1)	(H30)
①大火に負けない消防力の強化	合 計	4.0	(3.7)	(3.8)
	(被災地内)	3.9	(3.7)	(4.0)
	(被災地外)	4.1	(3.8)	(3.7)
②大火を防ぐまちづくり	合 計	3.7	(3.8)	(3.6)
	(被災地内)	3.7	(3.9)	(3.6)
	(被災地外)	3.6	(3.7)	(3.7)
③糸魚川らしいまちなみの再生	合 計	3.1	(3.1)	(2.9)
	(被災地内)	3.1	(3.0)	(2.7)
	(被災地外)	3.1	(3.2)	(3.0)
④にぎわいのあるまちづくり	合 計	3.2	(3.0)	(2.6)
	(被災地内)	3.4	(3.0)	(2.6)
	(被災地外)	2.9	(3.0)	(2.6)
⑤暮らしを支えるまちづくり	合 計	3.3	(3.4)	(3.5)
	(被災地内)	3.4	(3.6)	(3.4)
	(被災地外)	3.3	(3.2)	(3.5)
⑥大火の記憶を次世代につなぐ	合 計	3.9	(3.6)	(3.3)
	(被災地内)	4.0	(3.6)	(3.4)
	(被災地外)	3.9	(3.5)	(3.3)

※平均点は、回答いただいた評点の合計数を回答者数で割り算した数字です。

【5段階評価の傾向】

- ・①②⑥プロジェクトの評価が③④⑤プロジェクトに比べ高い傾向
- ・3か年の推移では、⑤プロジェクトを除き概ね評点が向上している傾向
- ・被災地外よりも被災地内にお住いの方の評点がやや高い傾向

(2)自由記載の概要

① 大火に負けない消防力の強化（11件）
<ul style="list-style-type: none">・40ミリホースに関する意見（訓練や配置数の強化、設置場所等）が多い。・高齢等で操作する人の不足を懸念する意見も見られた。
② 大火を防ぐまちづくり（6件）
<ul style="list-style-type: none">・被災地以外の地域における取組の展開に関する意見が多い。
③ 糸魚川らしいまちなみの再生（18件）
<ul style="list-style-type: none">・雁木の連続性、無電柱化工事の長期化による商売や生活への影響を懸念する意見が多い。・「糸魚川らしさ」そのものの意味合いに関する意見も見られた。
④ にぎわいのあるまちづくり（14件）
<ul style="list-style-type: none">・若者等の活動への好感や期待する意見が多い。・被災地域住民に活動の様子が伝わっていない、さらに発信してほしいという意見も見られた。
⑤ 暮らしを支えるまちづくり（11件）
<ul style="list-style-type: none">・高齢者の集いの場（サロン）の立上げを評価する意見がある一方で、分からない、先が見えないといった意見も見られた。
⑥ 大火の記憶を次世代につなぐ（10件）
<ul style="list-style-type: none">・HOPE 糸魚川やキターレの大火展示について知られていない、節目に大きく発信してほしいという意見がある一方で、全てやった、必要以上の事はしなくてよいという意見も見られた。
⑦ その他（21件）
<ul style="list-style-type: none">・各種の支援などに対する感謝や今後に向けた期待や応援の声をいただいた。・買い物の不便感や高齢者に配慮したまちづくりに加え、ハード（箱物）だけでなくソフト面で取組の重要性に関する意見も見られた。

※自由記述欄（原文）については、別紙2（参考）のとおりです。

令和2年度復興まちづくり計画評価 アンケート自由記載項目コメント一覧

①大火に負けない消防力の強化(11件)

1)	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な防火水槽をいくつも作ったことは、全国的にも大いに評価できる。 ・40ミリホースを配備したが、地域住民による訓練が1回しか実施されていないので、いざという時に住民が使用できない。年に2回は訓練が必要。
2)	<ul style="list-style-type: none"> ・消火栓やホースの使い方を地域ごとに訓練でき、さほど難しくはないということがわかってよかった。 ・地域や時間帯によって、難しくない消火設備さえ使いこなせる年代の人間がいないことがある。人的な協力体勢が整えば、完璧だと思う。
3)	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練等には直接的には参加していませんが、防災のためにいろいろな取り組みをされているのは結構なことです。ただ、すでに家は焼けてしまったので、空しい気持ちは残ります。
4)	<ul style="list-style-type: none"> ・40ミリホース設置場所と実際に使用取付する場所が解りづらい。
5)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が来ない、ありません。
6)	<ul style="list-style-type: none"> ・あれだけの大火でしたので、消防力は強化されて当然でしょう。もうこんな事は起きて欲しくないですから。まだまだ足りないですよ。 ・人がいないのに住民で消火訓練、どうやって説明して続けていけるのですか。動けない人が多いのに。
7)	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅用火災警報器(屋外連動型)のモデル事業終了したあとの方針・方向はどうするのか。
8)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボウボウ風が吹き荒れた大火時、これは人力では消せない火力だと感じました。次にフェーン現象の強風時の火災がおきた場合、果たして消火できるのか、不安な思いがあります。
9)	<ul style="list-style-type: none"> ・強風20m/s以上でのドローン使用が可能か周知してもらえればありがたいです。
10)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の出火時における「初期消火」の重要性を感じた。40ミリ小口径ホースの配備数をもっと増やしてもらいたい。
11)	<ul style="list-style-type: none"> ・関東地区のニュースでも知りました。

②大火を防ぐまちづくり(6件)

1)	<ul style="list-style-type: none"> ・大火によって住宅を再建した地域は、不燃化について他地域の見本になる町になったと思う。
2)	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅の再建時にお世話になりました。
3)	<ul style="list-style-type: none"> ・よくわからない。
4)	<ul style="list-style-type: none"> ・「商店街」にはなっていませんね。これからですね。時間のかかることだと思います。今年は「コロナ」のせいで難しかったのではと考えています。
5)	<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川市全体での助成でなく推進強化地域を定めて取組(助成制度は継続)してはどうか。
6)	<ul style="list-style-type: none"> ・糸魚川大火に遭った部分は取組が行き届いている様ですが、まだまだ古い建物で一旦火が付くと燃え広がりそうな所が多くみられます。

③糸魚川らしいまちなみの再生(18件)

1)	・工事が進むにつれ、すっかりとした景観になったように思えます。
2)	・雁木の再生は見た目にも進んでいない様である。 ・無電柱化はまだ工事段階である。
3)	・悪い意味で糸魚川らしさが出ている。従前の間口に合わせた単なる建替の街並。キターレそのものは良いが新しい取組み、当初の構想(理想)から離れているのではないかと。
4)	・道路が何回も埋め起こされ、仕方がない事とは思いますが。工事が終了すると、平らになる事を願っています。
5)	・電線の地中化に供なう工事期間が長すぎる。商店としては、客定の遠のきが大きく完成後の復活が望めない。
6)	・無電柱化のための工事が長期化しており、「毎日の騒音」「振動」「通行の不便さ」は、毎日大変です。早く終了してほしい。 ・雁木は、連続していないため、「街の景観」「雁木のもつ機能」が台なしになっている。
7)	・活用が見えない土地が多い。外来者が見るとやはり色が無く寂しい感じ
8)	・糸魚川らしさとは？と感じています。
9)	・雁木再生、まちなみの調和にこだわりすぎ、特に道路の美装化はかえって「美」になっていない。全部アスファルトにしてくれた方がすっかりとそして何より安全で使いやすい。 ・無電柱化の工事が少しでも早く終わる事を願います。
10)	・「糸魚川らしい」という前提が、いつ頃の糸魚川をイメージしていたのかが重要だったと思う。昭和の頃の糸魚川らしさを求めるには人口の構成から考えてそもそも無理があった。(できあがった町なみは、現在の糸魚川市の高齢化社会の姿を表していて、まさに「糸魚川らしい」と言えるかも・・・)。 ・無電柱化は、手続きの面、経済的な面など、これからの街作りに向けて、いい実践データを得られたと思う。
11)	・景観きれいですか？とても町並みとは言えません。雁木？あれが…。本町通りをどうしたいのですか？先が見えません。 ・買いたい物も魅もない店ばかり。本町通りを美装化しても魅力のない町に人は来ません。
12)	・雁木が途切れ途切れで中途半端。
13)	・電線の地中下は、十分なされていると思いますが雁木が少ないですね。「お店」と共に出来るとよいですね。
14)	・景観のバランス、街なみの統一感、にぎわい拠点の創造に課題の残った街づくりとなった。
15)	・次代に残したいもの糸魚川らしい街並み雁木は“おもてなし”の空間です。雁木再建を働きかけましょう。
16)	・みいちゃん通りの無電柱化は中止になったのでしょうか。残念なことです。
17)	・雁木再運率44%(市建築を含む)、当初建築予定者がかなりあったと聞いていたが、雪崩現象的となって現況の通り歯ぬき状態である。どの家も先代まではお客相手で生活をしてきた方ばかりと思うので、あるきっかけで賛同してもらえるのではなからうか。 ・個人負担額の更なる軽減、その他の条件等を添え(今の商店街組合では無理と聞くので)是非市当局より説得してほしい。商店街機能、景観、利便性からして、又街づくりの観点からして欠かすことが出来ない。(今冬の降雪時雁木を歩き特に思う)
18)	・雁木の再生、無電柱化の効果は、これからの商店街の再生にかかっていると思います。生活に必要なお店、見て楽しいお店が出来ればいいかと、生活しやすくなると思います。

④にぎわいのあるまちづくり(14件)

1)	・キターレの存在認識は序々に効果がでてきていると思います。
2)	・長期的に活躍してくれることを期待しています。
3)	・若い方がいろいろ考えて活動してくださるのは本当にありがたいし、うれしく思っています。 ・特にイルミネーションはどんどん大きくして糸川の冬の顔になればいいのにと感じていましたが、今回の年末年始の大荒れ大雪を見ると、やっぱり難しいなあと感じました。公園の使い方は本当に難しいと思います。維持管理も含めて。
4)	・大火によって、すでに「にぎわい」のなかった現状が決定的になったと言えるが、若い方が中心になって人を集めようと工夫したことがありがたい。
5)	・資料より、大変力が入っていると思います。今、育成されている人たちがこれから活躍していくことと考えています。
6)	・特に若い人たちが熱心に取り組んでおられることには敬意を表します。どのようなことをやっておられるのか、さらに発信・宣伝してください。
7)	・東北電力、宮田ビルの市取得が決定したが、その後の計画が見えてこない。 ・ナルス撤退により高齢者が大変である・若者がやる気になっており、協力を惜しまないが、走るのではなく相談も。
8)	・委員等の構成が同様の人々ばかりで広い意見の集まりとは思えない。色んな人々の声を聞いてほしい。また、委員の方々も拾い上げる努力をしてほしい。(ご多忙とは思いますが)
9)	・まちづくり会議の3つの部会の活動が住民に伝える面がほとんどない(少ない)ために、住民にはほとんどわからない状況となっている。 ・「にぎわいの拠点」については、具体的な方針がわからないために住民には不信の念が常にある。 ・高い高齢化率の地域での「にぎわい」の概念をどう持つのかが問われているのではないか。
10)	・キターレ、にぎやかですか？人が集まってくるのは銀行だけです。イルミネーションを見にいらした方は多いとは言えません。箱物はもういりませんよ。
11)	・今出来る事を行う事が大切。背伸びした施策は100%失敗すると思う
12)	・(大勢の人が行き来し活性化されている街) このままでは顔のないただ静かな糸魚川となってしまふ。当初と異なり企画の参加は「まちづくり会議・〇〇委員会」等々一般民間に依存した組織ばかりとなり、市当局が影となり隠れてしまった感をもつ。(後記設問7記載①災害に強いまち、②住み続けられるまち、はすべて当局の方針により進められたものと思うが) ・この設問4の項目に対しても強く先導してもらいたい。歴史に残る活気あふれる糸魚川を創生する最大のチャンスである「にぎわいのある街づくり」は今しかない、最後のチャンスだ。
13)	・若い人の力でにぎやかな町に…。子供の遊ぶ所を作ってほしい。
14)	・コロナ禍の影響でうまく進んでいかないのが現状のようです。

⑤暮らしを支えるまちづくり(11件)

1)	・広報を見ると色々な行事が組まれており、市を中心とした努力は何える。担当の方々も知恵をしぼり、工夫し、頑張ってこられたと思う。
2)	・セミナー等は開催しただけで満足しなで、実行実現・実現して本当の意義がある。机上の空論にしないで!!
3)	・新七、緑町の両区に働きかけて「サロンの活動」を立ち上げたことは評価できる。しかし、大事なものは「その活動をその地域の住民が主体的に創っていく」という視点であるはずだが、その点が大変に弱い。
4)	・身近に感じていないので、分かりません。
5)	・成果があるのでしょうか？魅力は何ですか？まちづくりの先があるのでしょうか。
6)	・市が取得した場所に、お風呂や高齢者のやすらげる場所を。
7)	・今出来る事を行う事が大切。背伸びした施策は100%失敗すると思う。
8)	・地区サロンについて今まだコロナ禍の真最中、個々の声かけは重要とは思いますが、特に高齢者が集まるサロンについては、もう少しの間、控えた方がいいと思う。
9)	・年輩者の多い中心部では近くに食料品の店が無く不自由している。何か方法がないものか。
10)	・私の大町にもサロンがあればよいと思います。老人会などで集まる機会はあるのですが。
11)	・急に結果のでる取組ではないと思いますが、続けることが大切だと考えます。

⑥大火の記憶を次世代につなぐ(10件)

1)	・皆さんよくがんばっていられるといつも思っています。
2)	・できることは、全てやったという感じがする。 ・1・2学期は、小学生が社会科や総合的な学習の場として駅北広場の周辺をよく訪れており、情報を活用する姿が見られた。
3)	・次世代の方々の「力」に励まされます。こども消防隊の活躍は、大人になった時、市の発展にとってもよい効果になると思います。
4)	・「HOPE糸魚川」は店内に置いています(回覧板でも回っている)が、知らない方が多い。初めて目にする…と。
5)	・大火に関する資料の展示がどこで行われているのか住民にはよくわからない。キターレの中だと思うのですが、キターレ自体への住民の関心があまり高くないので、「資料の展示」が住民の目にあまりふれていないのではないかと。
6)	・仕方がないからやっている感しか見えませんが…。
7)	・大火被災地に看板を設置し周知(観光客)・大火モニュメントを作制し展示する。
8)	・必要以上の事はしなくても良いかと。他地域では災害レベルがケタ違いな案件も多々あります。
9)	・大火の体験談は、次世代の人たちに伝えていかなければならないと思います。冊子等にまとめておられる方もありますが、風化しないうちに、市が音頭を取って公式的な記録集といったものを作っていただきたいと思います。
10)	・記憶が薄れていくのは仕方がないことですが、せめて節目の5年目、10年目などにはマスコミも含めて大きく取り上げて頂きたいです。

⑦その他自由記載欄(21件)

1)	・市は被災者への情報開示や相談等を行なっており評価する。この関係を続けてほしい。
2)	・お世話になっております。お陰様で現在大火前と同様に被災地内で生活しています。今後とも復興まちづくりのパーツになれば幸いです。
3)	・特にございません。関係者の皆様方のご努力に感謝します。
4)	・大変御苦労様でした。これからは楽しみです。
5)	・様々な取り組みに感謝しております。ありがとうございます。
6)	・復興まちづくり、皆様のご支援のおかげで整備され快適な生活をさせていただいています。感謝しています。
7)	・コロナウィルスの流行で、活動に色々な制約がかかり、ご苦労なさっていると思います。大変お疲れ様です。 ・これからも、復興内容の開示を定期的にお願ひしたいと思います。
8)	・遠方に住んでいるため、直接見て感じる事はできませんが市全体での取組をこのアンケート資料により知る事ができます。ありがとうございます。 ・時間のかかるプロジェクトだと思いますが、何十年か後に「よかったね」と言えるよう、がんばって下さい。応援しています。
9)	・本町通りの場合は、電線の地中化が終わらなければ実感出来ない。雁木の設置がどうなっているかが気になります。
10)	・中心市街地が空洞化になり、少子高齢の時代において、空回りしている様子が良くわかります。いくらワークショップをやってもその時ですよね。建物(箱物)だけでは何にもならない感があります。もっと住民に耳を傾けて聞いてください。
11)	・この場所(旧消防庁舎跡地、旧東北電力営業所周辺)をなんとか出来ないものでしょうか?いくらイベントがあってもその時だけで広がってはいきません。買い物に来る人も、その場所もありません。糸魚川は海・山の幸とおいしい物が沢山あります。道の駅的な誰もが来たい場所をお考え下さいませんか。
12)	・生活必需品、日用品等の購入に高齢者が不便を感じているので、街の中心部に小規模でよいから店舗が欲しいと感じております。
13)	・第四北越が合併して、いつか1つの銀行にまとまると思っています。町づくりで、人の流れが大切になるので、信組さん富銀さん大光さんが中心に残って欲しいです。 ・あとやはり、食品等が毎日買物できる店がないので残られた方は、不便を感じています。黒姫さんの移動販売も回ってくれていますが、もう1つ店があればと思います。
14)	・駅前の「ナルスの閉店」により駅北中心街に住む「一人暮らし高齢者」が食料の調達に大変に困った状況になっている。この点を踏まえた「まちづくり講想」が見えない。これでは「復興まちづくり」にならないのではないかと、設問4にも書いた「にぎわいの概念」とも関係して、大事な点だと思うが。
15)	・人の流れを見える様な施策を考えてもらえればと思う。 ・雪捨場の確保切望します。(又は用水のフタ等確保)
16)	・工事途中なので、まだ分かりませんが、ハード面だけでなく、ハードを活用したソフト面での対応が今後は大切になると感じていますし、作ったから終りではなく検証と改善も必要かと思ひます。
17)	・大火後5年目に入りそろそろ「復興」も終わりに近づいていると思う。ここまで復興した町が、今度は持続可能な町になってほしい。できることなら、若い世代の家族が住みたいと思える町になるといいと思う。 ・駅北の地域以外で、住み主のいない家がとて多くなっている。防火防犯の面からも、活かしたり、無くしたりして、市全体がゆったりした所になるといいと思う。

18)	<p>・(復興まちづくりの目標)より「かたい絆でよみがえる、人が行き交う笑顔の街道糸魚川」 3つの方針①災害に強いまち、②住み続けられるまち(暮らしやすいまち)、③にぎわいのあるまち (キターレ:常時人が出入りする場所となしてほしい。にぎわいの拠点施設:その後の進捗状況は?)</p>
19)	<p>・新幹線駅ができて以来、テレビ地上波の写りが悪くなり、家を再建してから、さらに悪化しました。時間や天候の具合により、モザイクがかかったり、ひどい時には全く映らなくなります。隣家も同じような状態です。みいちゃん通りを隔てた南側の地域では、共同アンテナで見ることができると聞いたので、私の家にもつないでもらえないかと総務課をお願いに行ったのですが、だめでした。今一番困っているのはこのことです。ご検討いただければありがたいです。</p>
20)	<p>・ただでさえにぎわいをとり戻すのは困難なのにコロナ禍で人が集まらない日々が続きます。コロナの収束直後の取り組みが大火からの復興、にぎわいのある街づくりへのカギになると思います。</p>
21)	<p>・イベントに寄る場所になっている。そこで生活している人の事を考えると、小さなスーパーとか。いっそ生活するよりも大きなイベント広場ととらえた方が良いのでは。 ・雁木は銀行回りの時に便利です。</p>